

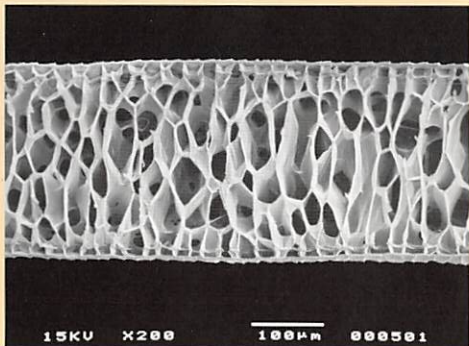
人類が北方の寒冷な環境へと生活の場を広げるためには、さまざまな知恵と技術が必要でした。その最も重要なものの一つが、衣類です。本展では、北方の先住民が伝えてきた衣類の素材、機能、技術などの特徴について、世界の他地域の衣文化と比較しながら紹介します。



アザラシ毛皮製ブーツ (コリヤーク/ロシア・カムチャツカ地方)

毛皮はなぜ暖かい？

ほとんどの哺乳類の毛皮は、長くて太い「保護毛(刺毛)」と短くて繊細な「下毛(綿毛)」からなっています。毛は1つの毛穴から束になって生え、毛と毛の間には空気層ができて、寒さを防ぐとともに暖かさを保っています。さらに、毛の内部に空洞の気室が発達しているものもあります。毛の密度や構造は、動物の種や生息環境によって異なり、同じ動物でも年齢や部位、季節などによって違ってきます。走査電子顕微鏡写真などで、毛の不思議を紹介します。また、実際に毛皮に触れてみることもできます。



気室が発達したトナカイの冬の保護毛の断面写真 (提供: 近藤敬治氏)



アザラシ腸製上着を着た人形 (チュピック/アメリカ・アラスカ州)

■観覧料

	特別展	常設展	セット割引
一般	450(300)円	450(360)円	700(660)円
65歳以上	300円	無料	—
高校生・大学生	150(120)円	150(120)円	240(240)円

※中学生以下はいずれも無料・()内は10名以上の団体料金

- 主催 北海道立北方民族博物館
- 協力 東京家政大学博物館
文化学園服飾博物館
近藤敬治氏、呉人恵氏、高橋佐貴子氏、津田命子氏
スチュアート ヘンリ氏、大島稔氏、佐々木史郎氏

〒093-0042 網走市字潮見309-1 (天都山・道立オホーツク公園内)
網走バス観光施設めぐり線・北方民族博物館前 (駅から約15分)
TEL0152-45-3888 / FAX0152-45-3889 <http://hoppohm.org>

【指定管理者: 財団法人北方文化振興協会】

第25回特別展

トナカイのパーカと アザラシのブーツ

～北方の衣文化をさぐる～

Reindeer Fur Parka and Sealskin Boots:
Traditional Clothing of Northern Peoples



トナカイ毛皮製パーカ (イヌビアク/アメリカ・アラスカ州)

2010 7.17(土) - 10.17(日)

開館時間 9:00-17:00 (10月は9:30-16:30)

休館日 10/4(月), 12(火) *7~9月は無休

 北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

世界の衣服、北方の衣服

世界の各地でくらす人びとは、気候をはじめとする自然環境や歴史等の違いにより、多様な衣文化を生み出してきました。衣服の形態は、腰布型、巻垂型、貫頭型、前開型、体形型の5つに大きく分類されています。北方民族の衣類の大部分は、寒冷な気候に適応した体形型と前開型に当てはまります。また、衣類の素材は、温暖な地域では主に植物性繊維が用いられていますが、寒冷地では一般に動物の皮が利用されています。展示では、インド、インドネシア、台湾、グアテマラといった地域の異なる衣服についても、環境との関わりから紹介しています。

暖かく大きな毛皮

一般に寒冷地の哺乳動物は、暖かな毛皮で覆われていますが、ヒトは特定の部位を除いて体毛が退化しています。北方地域の人びとは、衣類や住居などに他の動物の毛皮を用いてきたわけですが、トナカイをはじめとするシカ類やアザラシ類など、その肉も食用となる大型獣を中心に捕獲しました。そして、暖かく軽いトナカイの毛皮は冬の衣服に、水に強いアザラシの毛皮は履き物にするなど、さまざまな種の毛皮をその特性に合わせて使い分けました。さらに、体温で暖められた衣服の中の空気を逃さないように、フードやつなぎなど形も工夫されました。また、皮をしなやかで長持ちさせるための鞣しや、丈夫で美しい縫製の技術も伝えられてきました。毛皮の衣類とそれを作る道具類などを展示します。



男性の伝統衣装
トナカイ毛皮製ズボンとブーツ
(サミ/フィンランド・エノンテキオ地方)



トナカイ毛皮製子ども用つなぎ
(コリヤーク/ロシア・マガダン州)



鳥皮製子ども用パーカ
(イヌイト/アメリカ・アラスカ州)



狩猟用の男性の衣服
アザラシ毛皮製のズボンとセイウチ皮製のブーツ
(イヌイト/グリーンランド)



樹皮製衣「アットゥシ」(アイヌ/北海道)



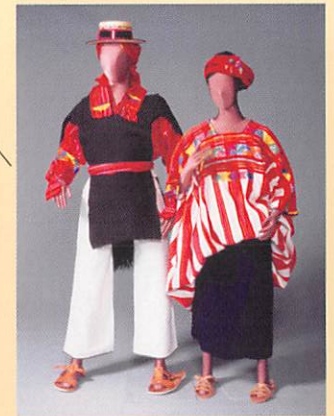
インドの女性用衣装「サリー」
(東京家政大学博物館所蔵)



インドネシアの男性用腰巻・肩掛け「ヒンギ」(東京家政大学博物館所蔵)



台湾先住民ヤミの成人男女と少年の伝統衣装
(東京家政大学博物館所蔵)



グアテマラのマヤ民族の男女の衣装
(東京家政大学博物館所蔵)



毛皮交易と先住民

17・18世紀ころから、ヨーロッパや中国では良質な毛皮に対する需要が高まり、欧米の探検家や毛皮商人はシベリアやアラスカ、カナダなどに進出していきました。先住民たちは毛皮をめぐる世界的な交易ネットワークに巻き込まれ、その文化は大きな変容を余儀なくされました。こうした歴史の一端も紹介します。

・所蔵先を記していないものは、すべて北海道立北方民族博物館蔵